

文書管理システムが拡大

厳格化と効率化を実現 信金向け開発に着手

セキュリティリサイクル研究所が提供する文書管理システムの導入が、金融界で拡大している。社内で発生する様々な紙媒体のファイリングから廃棄まで、一連の作業をシステム化して、管理体制の厳格化や効率化を実現できるのが特徴。これまでは地域銀行の導入が中心だったが、2016年にも複数の信用金庫と共同で信金向けのモデル開発に着手する。

同社は1996年に「文書管理システムを紛失のリスク低減や行内観点からシステム化の設立以来、1千社以上」提供。金融界でも情報職員の負担軽減などの関心は高く、秋田銀行、

東邦銀行、常陽銀行、第四銀行などが採用している。

同システムは、本部や営業店、書庫などに保管されている文書を一元的に管理するのが目的。保管時にシステムに沿って文書名などを登録するだけで「文書保存台帳」を自動的に作成。

入出庫管理は、バーコードや色を使った自動認識技術「カラービ

ット」を活用することで、パソコン画面で文書の保管場所検索や閲覧履歴などの把握が可能になる。

ラベルやファイルも定期的に提供するため、人手によるラベル作成などの作業が不要になるほか、全店で様式を統一することが可能。

同社は、これまでは各金融機関の事務規定などに応じてシステムを個別にカスタマイズしてきた。ただ、地域銀以外の関心も高いため、新たに信金向けに導入費用を抑えたパッケージシステムの開発を決定した。

10月から共同でモデル開発に取り組み信金を複数募集。参加信金の知見を生かしながら、16年以降に開発に着手し、17年度以降に

稼働を開始する予定。導入提案も本格化して同社では他の信金へのいく。